

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

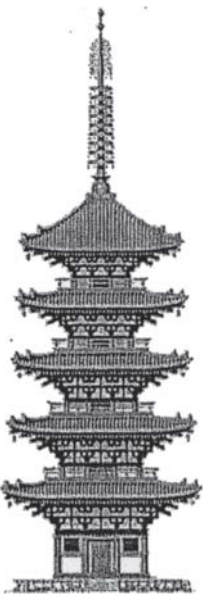
皆さん、こんにちは。日本
佛教と聖徳太子の生涯がテ
マの今年のかわら版。今月は
遣隋使が持参した国書に記さ
れた**日出ずる処の天子**の背景
についてです。

★小野妹子

六〇三年(太子三十二歳)
の**官位十二階**、**六〇四年**(同
三十三歳)の**十七七条憲法**に
よって、国家としての体制を
整えた太子。

六〇七年(同三十六歳)、
小野妹子(**あののいもこ**)を
遣隋使として派遣します。

日本書記には妹子が最初の
遣隋使と記されていますが、
隋書によれば、**六〇〇年**(同
二十九歳)にも派遣されてい
たことは先月号でお伝えしま
した。



しかし、国家としての体制
整備が不十分であったため、
隋の**文帝**(**楊堅**)に正式な外
交使節として認められなかつ
たようです。このため、日本
書記はその事実を記しません
でした。

そして、体制を整えた後の
遣隋使である妹子には、五番
目の官位である**大札**の冠を与
えて派遣しました。



小野妹子

★日出ずる処の天子

隋書には、妹子が持参した
国書を見て**煬帝**(**ようだい**)
が激怒したと記されています。
その理由は、国書の書き出
しが「**日出ずる処の天子**、書
を**日没する処の天子**に致す。
恙(つつが)なきや云々」と
なっていたからです。

隋書には、妹子が持参した
国書を見て**煬帝**(**ようだい**)
が激怒したと記されています。
その理由は、国書の書き出
しが「**日出ずる処の天子**、書
を**日没する処の天子**に致す。
恙(つつが)なきや云々」と
なっていたからです。

★皇帝と天皇

日本書記は六〇七年の国書
のことは載せていません。
一方、翌**六〇八年**(同三十
七歳)、妹子が再び遣隋使と
して派遣された際の国書の記
述はあり、その書き出しは
「東の天皇、敬(つつし)み
て西の皇帝に白(もう)す」
であったと記しています。



煬帝

煬帝は「蛮夷の書、復(ま)
た以て聞(ぶん)する勿(な
か)れ」(こんな無礼な書は
二度と見せるな)と臣下に命
じたと記されています。

しかし、妹子は返書を渡さ
れたうえ、煬帝の使者**裴世清**
を伴って帰国します。
当時の隋は**高句麗**と戦争状
態(**麗隋戦争**)にあり、高句
麗の背後に位置する倭国との
同盟関係を模索し、無礼を不
問に伏したと言われています。

★三経講経と三経義疏

六〇五年(同三四歳)、太
子は推古天皇の前で三つの経
の講義を行いました。有名な
三経講経(**さんけいきょう**)です。
その後、晩年にかけては解説
書である**三経義疏**(**さんけいぎしよ**)
を編纂。

来月は、太子の佛教を語る
際に欠かせない講経と義疏の
話しをお伝えします。乞ご期
待。

